

河川改修事業の再評価項目調書

事業名（箇所名）	ひのがわ 日野川直轄河川改修事業								
実施箇所	日野川水系直轄管理区間 鳥取県米子市～伯耆町溝口、南部町法勝寺								
該当基準	再評価実施後一定期間（3年）が経過している事業								
事業諸元	一般改修（堤防整備、護岸整備、河道掘削、堰改築等） 管理延長 日野川 L=17.0km、法勝寺川 L=10.9km								
事業期間	日野川直轄河川改修事業（整備期間30年）：平成25年～平成54年 当面想定している事業（整備期間 6年）：平成25年～平成30年								
総事業費（億円）	（整備期間30年）175 （整備期間 6年） 29		残事業費（億円）		（整備期間30年）175 （整備期間 6年） 29				
目的・必要性	<p>日野川は鳥取県西部に位置し、その源を広島・島根の県境に位置する三国山に発し、途中印賀川や俣野川等の支川を合わせ、下流で法勝寺川と合流し、日本海（美保湾）に注ぐ、流域面積870km²、幹川流路延長77kmの一級河川である。日野川本川の河床勾配は下流部を除けば1/130～1/190程度と、中国地方でも有数の急流河川である。また、流域の約90%を山林が占めており、日野川から流送された土砂で形成された扇状地と弓浜半島に流域内の人口・資産が集中している。</p> <p>日野川下流の米子市は、鳥取市に次ぐ鳥取県第二位の人口を持ち、県西部の中核を担う街である。日野川下流部は日野川から流送された大量の砂で形成された扇状地と海岸で形成されているため、中流部で氾濫が発生すると氾濫流は下流市街地に及ぶことから甚大な被害となる恐れがある。また、法勝寺川は固定堰等の横断工作物による流下能力の阻害により洪水時にせき上げによる水位上昇が発生する恐れがあり、特に下流左岸堤防が決壊した場合には氾濫流が米子市街地にまで到達する。</p> <p>過去から度々大きな洪水被害を受けているが、昭和年代に入ってから昭和9年9月などの台風性降雨により記録的な洪水が発生しており、昭和20年9月には昭和以降最大規模の洪水を経験している。あわせて、法勝寺川下流では、内水被害も頻発しており、早急な対策が望まれている。</p> <p>（洪水実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 9年 9月洪水（室戸台風）：浸水家屋2,390戸^{※1} ・昭和20年 9月洪水（枕崎台風）：浸水家屋2,247戸^{※1} ・昭和47年 7月洪水：浸水家屋3,086戸 ・平成18年 7月洪水：浸水家屋 33戸 ・平成23年 9月洪水：浸水家屋 24戸 <p style="text-align: right;">（※1：県内全体 それ以外は流域内）</p> <p>（災害発生時の影響：想定氾濫区域内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口：約86,600人 ○世帯数：約32,100世帯 ○重要な公共施設等：米子市役所、米子警察署、米子消防署 JR山陰本線、JR伯備線、JR境港線、山陰自動車道、米子自動車道 ○災害弱者関連施設：米子医療センター、鳥取大学医学部 附属病院 米子老人福祉センター、米子養護学校 								
便益の主な根拠	年平均浸水軽減世帯数1,019世帯（当面想定している事業844世帯） 年平均浸水軽減面積200ha（当面想定している事業99ha）								
事業全体の投資効率性	B：総便益	（億円）	C：総費用	（億円）	B/C	B-C	EIRR	基準年度	
	直轄河川改修事業	総便益	3,532	総費用	103	34.2	3,429	840%	H24
	当面想定している事業（整備期間6年）	総便益	2,970	総費用	25	118.1	2,945	761%	H24

事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後最大洪水（日野川本川：昭和20年9月：枕崎台風、支川法勝寺川：昭和34年9月洪水）と同規模の洪水が発生した場合でも、浸水被害を防止する。 （車尾地点で1/20確率相当の洪水が発生した場合） 浸水世帯数世帯7,310 ⇒ 361世帯（当面想定している事業 ⇒1,015世帯） 浸水面積1,487ha ⇒ 137ha（当面想定している事業 ⇒775ha） 被害額1,361億円 ⇒ 51億円（当面想定している事業 ⇒169億円）
社会情勢等の変化	<p><地域状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年、平成23年には観測史上最大規模の洪水が発生しているため、住民の治水に対する関心は高く、河川改修への要望も強い。 <p><事業に関わる地域の土地利用、人口、資産等の変化></p> <p>【主要自治体（米子市）指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口：0.99倍（148,271人/149,584人） 〈H22数値/H17数値〉 内高齢者率：1.13倍（24.4/21.5） 〈 〃 〉 ○世帯数：1.04倍（57,470世帯/55,212世帯） 〈 〃 〉 ○事業所：0.95倍（7,107事業所/7,466事業所） 〈H18数値/H13数値〉 ○従業者：0.97倍（65,825人/67,669人） 〈 〃 〉
事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・支川法勝寺川の青木箇所においては、事業着手しており順調に進捗している。
事業の進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのところ事業は順調に進捗。地域住民からは引き続いての河川改修事業を切望されており、関係機関並びに地域との協力体制も構築されていることから、今後も円滑な事業進捗が見込まれる。
コスト削減や代替案立案等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削残土は、盛り土材料として関係機関を含めた工事に流用するなど、残土処分費用のコスト削減に努める ・流域全体としての総合的な土砂管理の観点から、河道においては河道掘削や堰改築、上流域では透過型砂防堰堤の整備、海岸域では人工リーフの整備やサンドリサイクルの推進など、流砂系として健全な土砂動態の確保に努める ・現在、河川整備計画の策定作業中であり、有識者及び地域住民からの意見を踏まえつつ、関係機関と協議・調整を図りながら、コスト削減や事業の効果・効率性等を考慮して、整備内容等を定める
対応方針（原案）	継続
対応方針理由	<ul style="list-style-type: none"> ・治水安全度向上の必要性、費用対効果、地元の協力体制等を鑑み、継続が妥当である。 ・早期の治水安全度向上に向け、引き続き事業の推進を図り、早期に完成させることが必要。 ・今後の詳細な設計段階において更なるコスト削減を図るとともに、環境にも配慮して事業を進め、より一層の事業効果の発現に努める。
その他	—

日野川直轄河川改修事業 事業再評価

国土交通省 中国地方整備局

平成24年9月26日

① 日野川流域の概要、事業の目的、必要性

② 整備目標(案)、整備期間(案)、実施内容(案)、費用便益比 (B/C) 算出の流れ

③ 事業の費用対効果分析

日野川直轄河川改修事業

④ 日野川直轄河川改修事業（全体事業(案)）【H25 ～H54】

・ 便益の算出方法、費用便益比 (B/C) 算出、事業効果

⑤ 日野川直轄河川改修事業（当面6年間(案)）【H25 ～H30】

・ 便益の算出方法、費用便益比 (B/C) 算出、事業効果

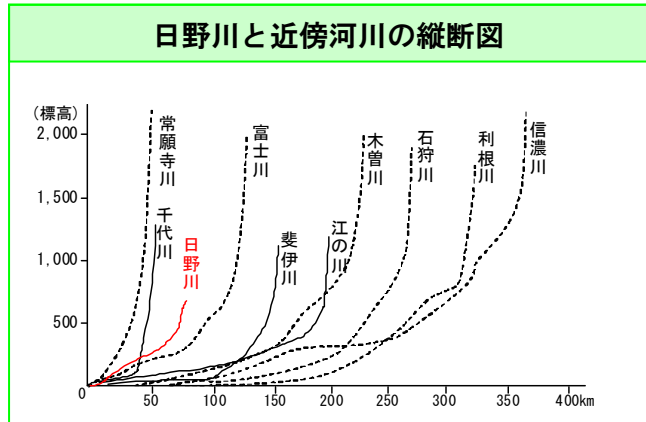
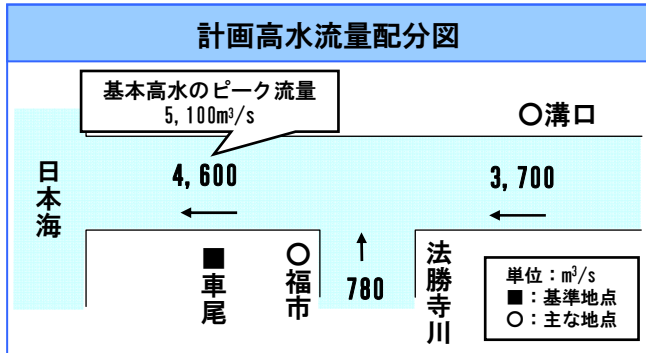
⑥ 今後の対応方針（原案）

日野川流域の概要

- 日野川は、その源を広島・島根の県境に位置する三国山（標高1,004m）に発し、途中印賀川や俣野川等の支川を合わせ、下流で法勝寺川と合流し、日本海（美保湾）に注ぐ、流域面積870km²、幹川流路延長77kmの一級河川
- 日野川本川の河床勾配は下流部を除けば1/130~1/190程度と、中国地方でも有数の急流河川
- 流域の約90%を山林が占め、日野川から流送された土砂で形成された扇状地と弓浜半島に流域内の人口・資産が集中

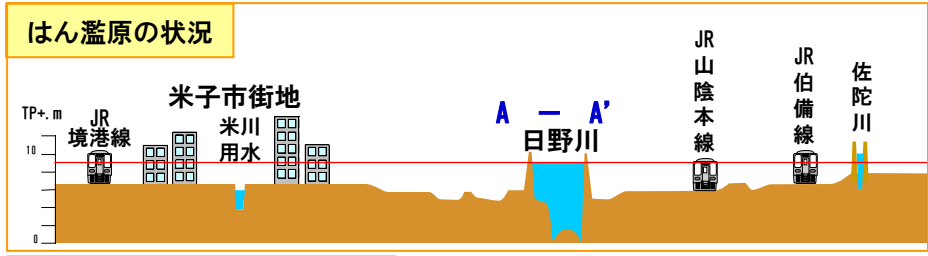
流域及びはん濫域の諸元

流域面積 : 870km² ※河川現況調査（H17年基準）より
 幹川流路延長 : 77km
 流域内人口 : 約6万人
 想定はん濫区域面積 : 62km²
 想定はん濫区域内人口 : 約8.7万人
 想定はん濫区域内資産額 : 約1.8兆円
 主な市町村 : 米子市、伯耆町等

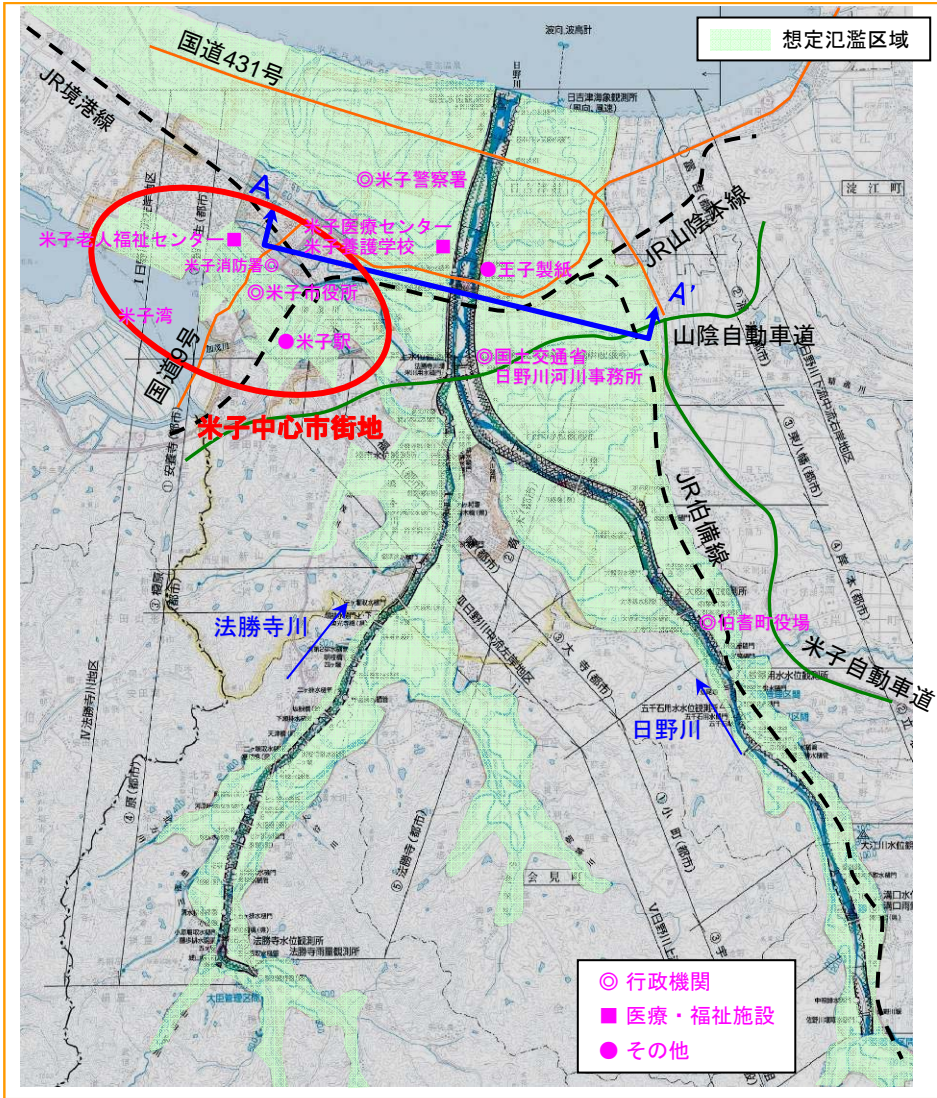


目的・必要性(日野川の特徴)

- 日野川下流域は、扇状地と過去行われた砂鉄採取のための「かな流し」で流送された土砂による弓浜半島の外浜で形成されており、鳥取県第二位の人口が集中する米子市街地が広がっている
- 洪水により日野川や支川法勝寺川が一度はん濫すると、その影響は米子市の中心市街地にまでおよび、被害は甚大となる
- 支川法勝寺川では、固定堰等の横断工作物により、洪水時にせき上げによる水位上昇が発生するため、近年では内水による浸水被害が頻発している



- ### はん濫域内の重要な公共施設
- 行政機関**
 国土交通省日野川河川事務所
 米子市役所、伯耆町役場
 米子警察署
 米子消防署
 - 医療福祉施設**
 米子医療センター
 鳥取大学医学部 附属病院
 米子老人福祉センター
 米子養護学校
 - 交通網**
 JR山陰本線、JR伯備線、JR境港線
 山陰自動車道、米子自動車道
 - その他**
 米子駅、米子港
 王子製紙



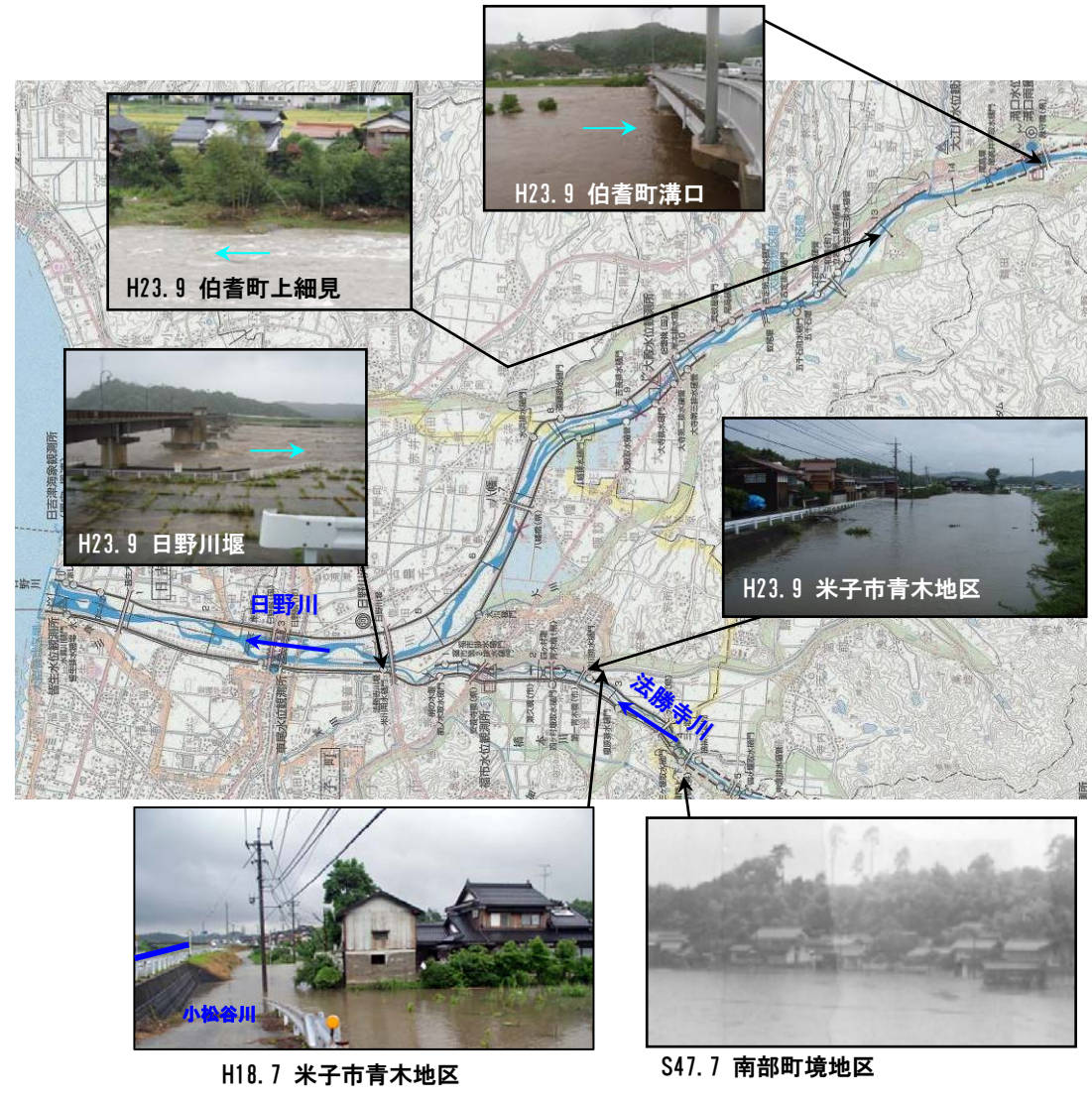
事業の目的・必要性(過去の洪水被害)

- 日野川流域では、過去から度重なる洪水被害に見舞われ、昭和年代に入ってから昭和9年9月（室戸台風）、昭和20年9月（枕崎台風）等により、甚大な被害が発生
- 平成18年7月洪水、平成23年9月洪水では、流量観測開始以降で最大クラスの洪水を記録し、家屋浸水等が発生
- 法勝寺川沿川では、近年内水による浸水被害が頻発

主な洪水と被害状況

発生年月日	発生原因	車尾地点最大流量 (m³/s)	流域もしくは県内全域の浸水被害	左記のうち法勝寺川における内水被害
S9.9	室戸台風	3,100 (推定値)	死者：75人 浸水家屋：約3万戸 (県内全域) 浸水家屋：2,390戸 (流域内)	不明
S20.9	枕崎台風	3,200 (推定値)	死者6人 床上浸水：445戸 床下浸水：1,802戸 田畑：約5,400町歩 (県内全域)	不明
S47.7	梅雨前線	1,801 (実績値)	浸水面積：360ha 床上浸水：265戸 床下浸水：2,821戸 (流域内)	浸水面積：360ha 床上浸水：3戸 床下浸水：166戸
H10.10	台風10号	1,587 (実績値)	浸水面積：13ha 床下浸水：6戸 (流域内)	浸水面積：13ha 床下浸水：6戸
H18.7	梅雨前線	2,333 (実績値)	浸水面積：35ha 床上浸水：1戸 床下浸水：32戸 (流域内)	浸水面積：35ha 床上浸水：1戸 床下浸水：32戸
H23.9	台風12号	2,113 (速報値)	浸水面積：60ha 床上浸水：7戸 床下浸水：17戸 (流域内)	浸水面積：60ha 床上浸水：7戸 床下浸水：17戸

出典 S9：河川災害史調査（国土交通省）
 S20：米子市史（米子市）
 S47：昭和四十七年七月豪雨災害史（国土交通省）
 H10～H23：日野川河川事務所資料



事業の整備目標(案)・整備期間(案)・実施内容(案)

日野川水系においては、河川整備計画が未策定のため、戦後最大規模の洪水が発生した場合にも浸水被害の防止を図ることを想定し、今後30年間で実施可能な整備内容を設定

■整備目標(案)

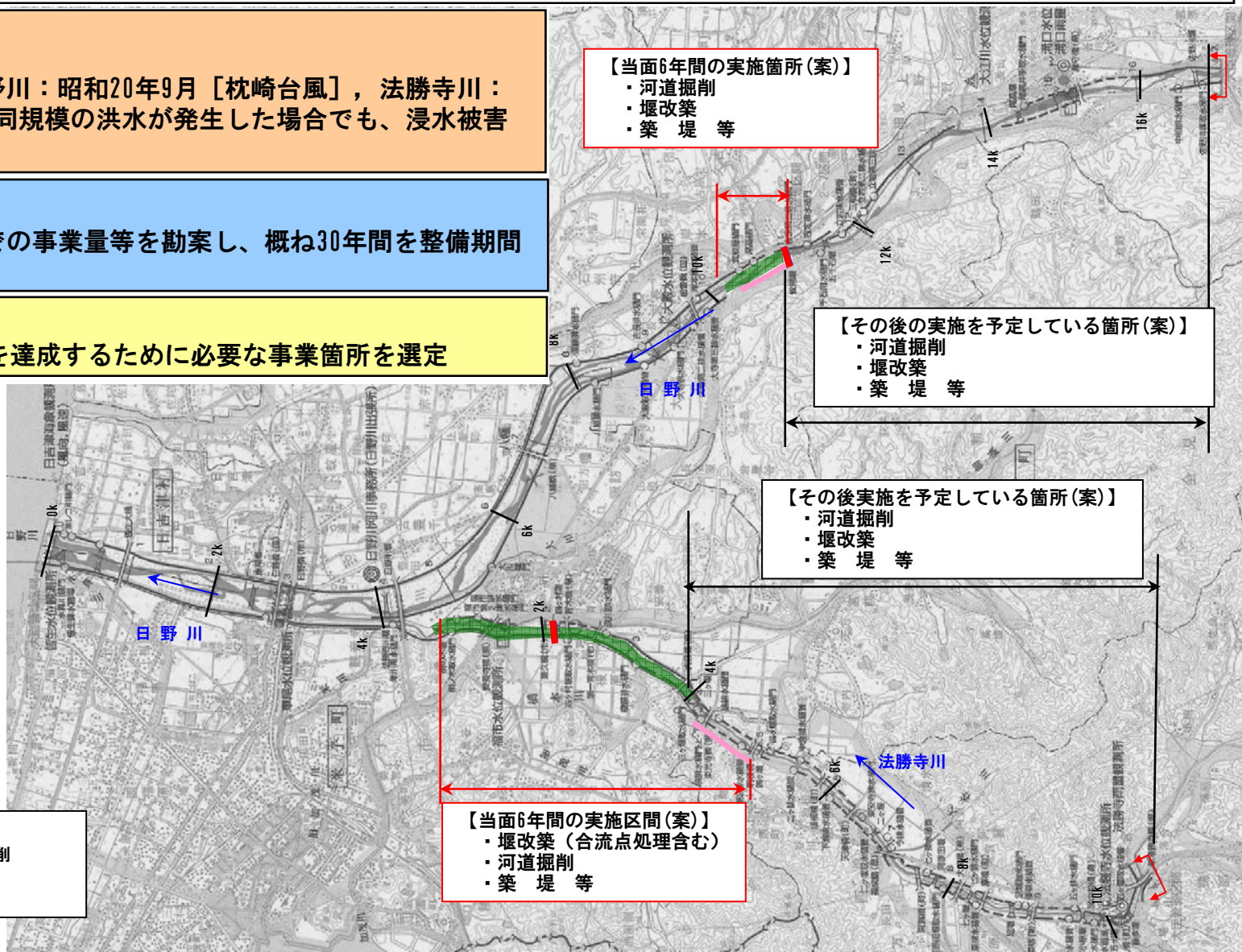
戦後最大洪水（日野川：昭和20年9月〔枕崎台風〕，法勝寺川：昭和34年9月洪水）と同規模の洪水が発生した場合でも、浸水被害を防止する

■整備期間(案)

目標を達成する上での事業量等を勘案し、概ね30年間で整備期間として設定

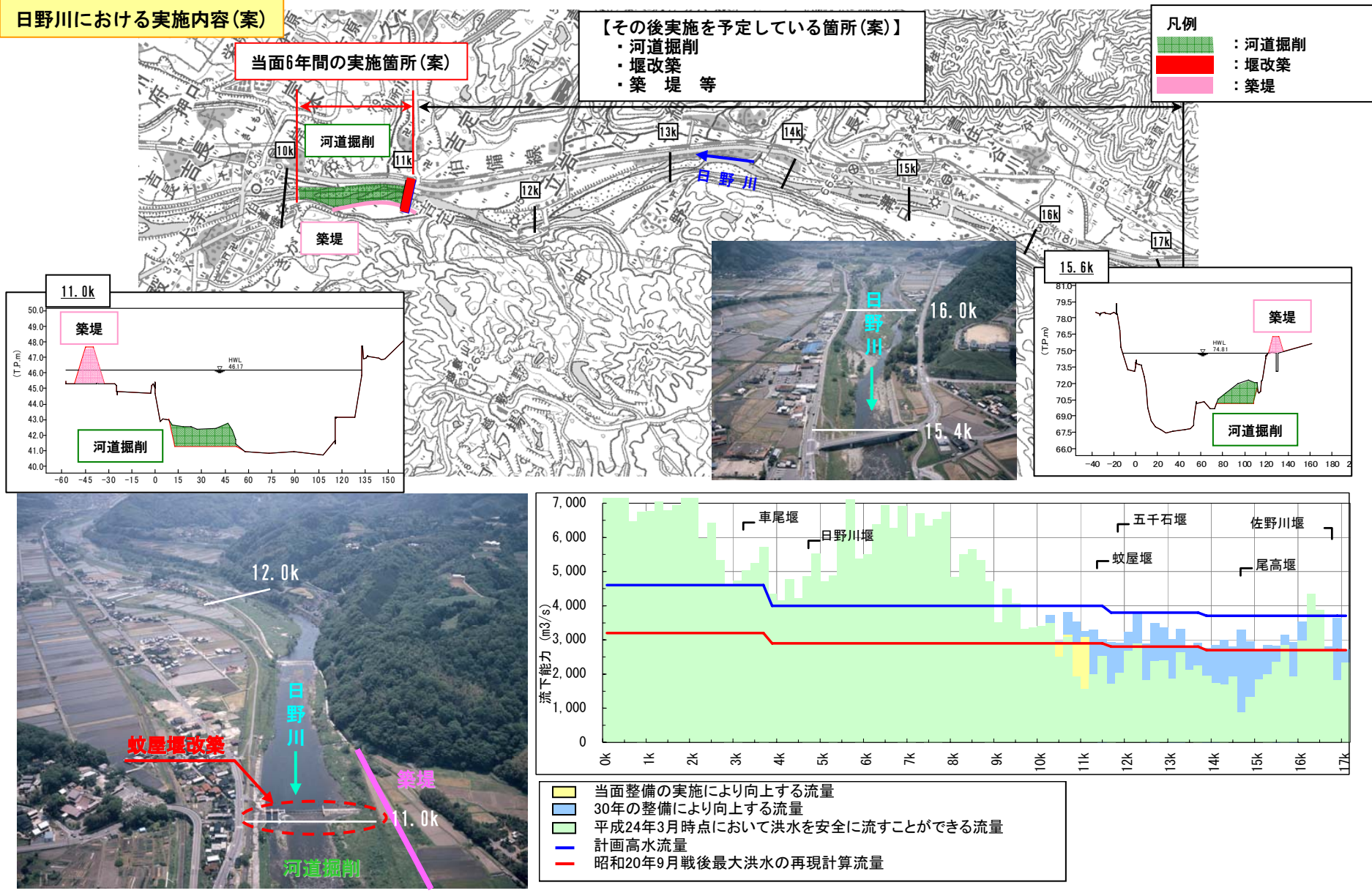
■実施内容(案)

整備期間内に目標を達成するために必要な事業箇所を選定



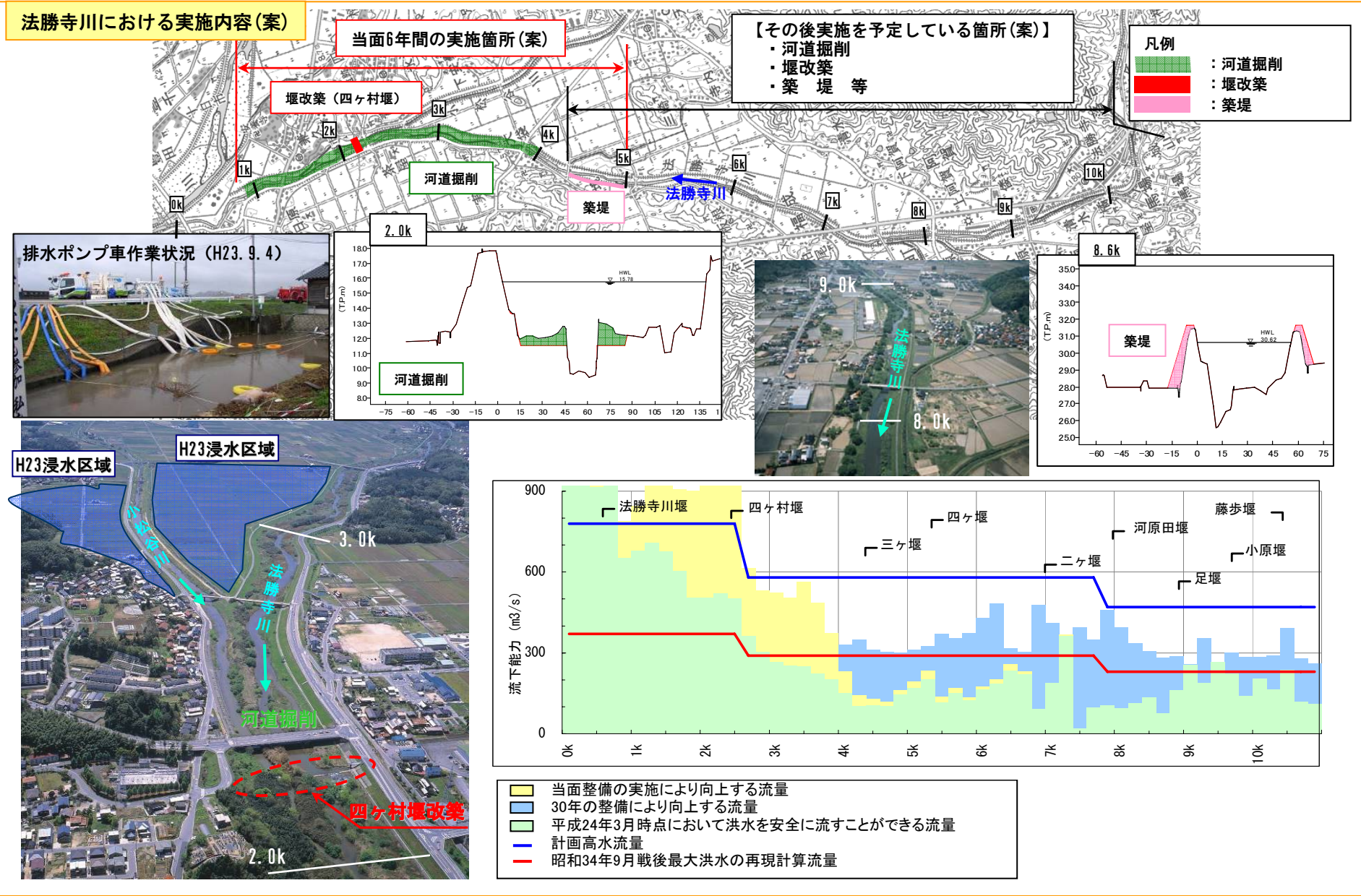
日野川の実施内容(案)

■日野川における主な事業内容(案)は、堰改築、河道掘削、堤防高不足区間等の築堤・護岸等の整備を予定

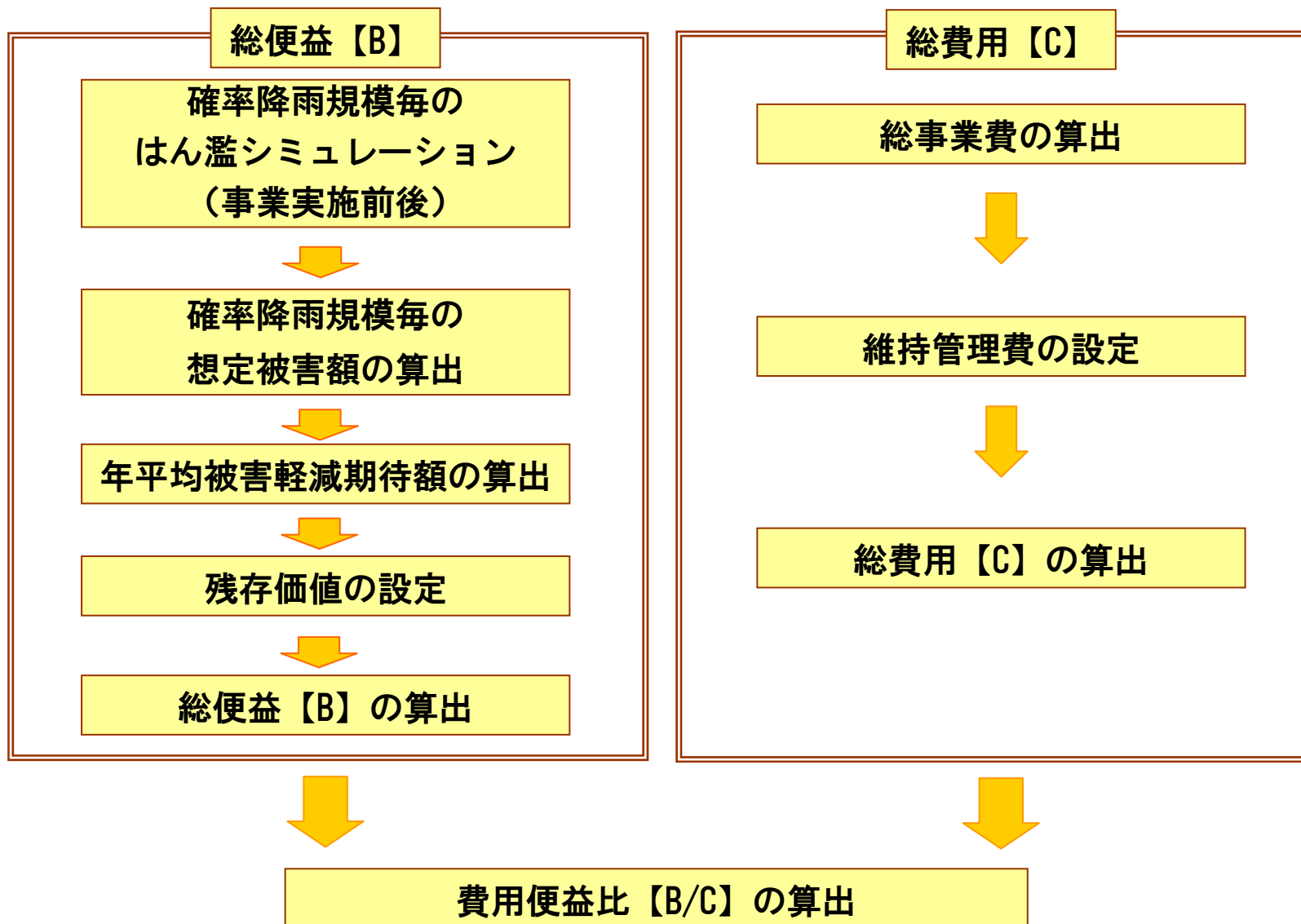


法勝寺川の実施内容(案)

■法勝寺川における主な事業内容(案)は、堰改築、河道掘削、堤防高不足区間等の築堤・護岸等の整備を予定



費用便益比 (B/C) 算出の流れ



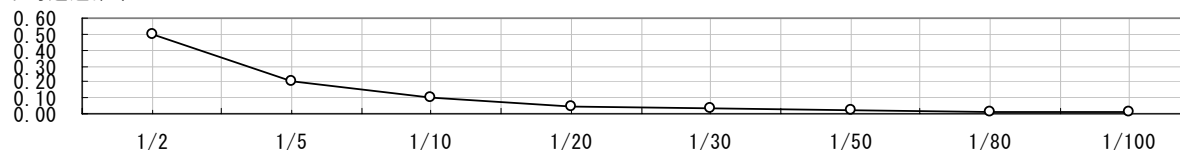
① 便益の算出方法

- 計画規模1/100年確率を最大として8ケースを検討
(無害流量、1/5年、1/10年、1/20年、1/30年、1/50年、1/80年、1/100年)
- 年平均被害軽減期待額は約182億円

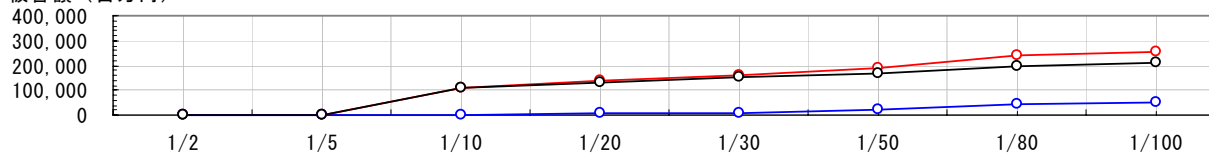
年平均被害
軽減期待額

流量規模	年平均超過確率	被害額(百万円)			区間平均被害額 ④	区間確率 ⑤	年平均被害額 ④×⑤	年平均被害額の累計 =年平均被害軽減期待額 (百万円)
		事業を実施しない場合 ①	事業を実施した場合 ②	被害軽減額 ③ = ① - ②				
1/2 (無害流量)	0.500	0	0	0	1,519	456	456	
1/5	0.200	3,037	0	3,037	54,544	5,454	5,910	
1/10	0.100	106,050	0	106,050	118,548	5,927	11,837	
1/20	0.050	136,101	5,056	131,045	142,193	2,370	14,207	
1/30	0.033	160,654	7,314	153,340	159,860	2,131	16,339	
1/50	0.020	191,659	25,279	166,380	181,190	1,359	17,698	
1/80	0.012	237,345	41,245	196,000	201,862	505	18,202	
1/100	0.010	256,993	49,269	207,724				

年平均超過確率



被害額(百万円)



○ 事業を実施しない場合①
○ 事業を実施した場合②
○ 軽減額 ③=①-②

全体事業(案)の費用対効果分析

②費用便益比 (B/C) の算出

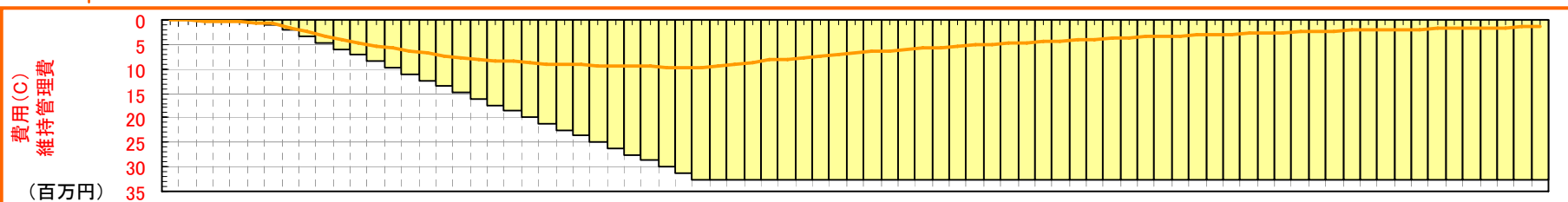
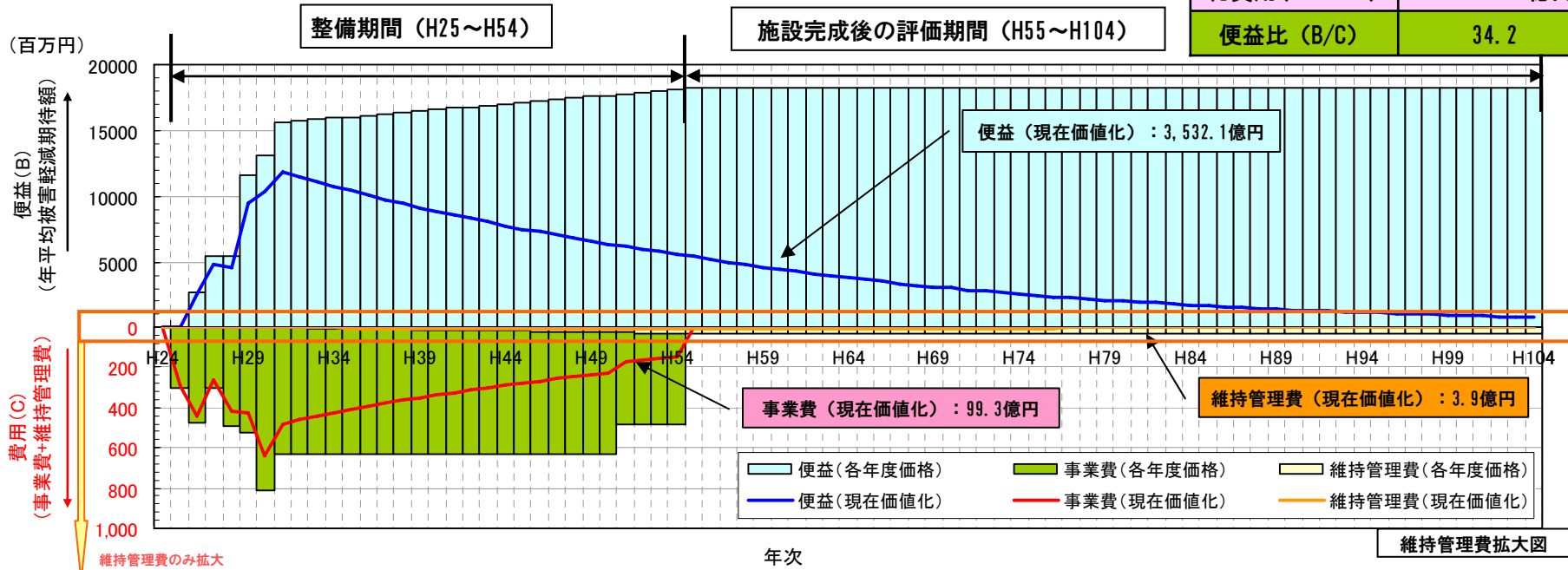
■便益の整理

- ・①で算出した評価期間中に発現する便益を、社会的割引率(4%)で割り引いた上で集計
- ・施設完成後の評価期間後に生じる残存価値を算定

■費用の整理

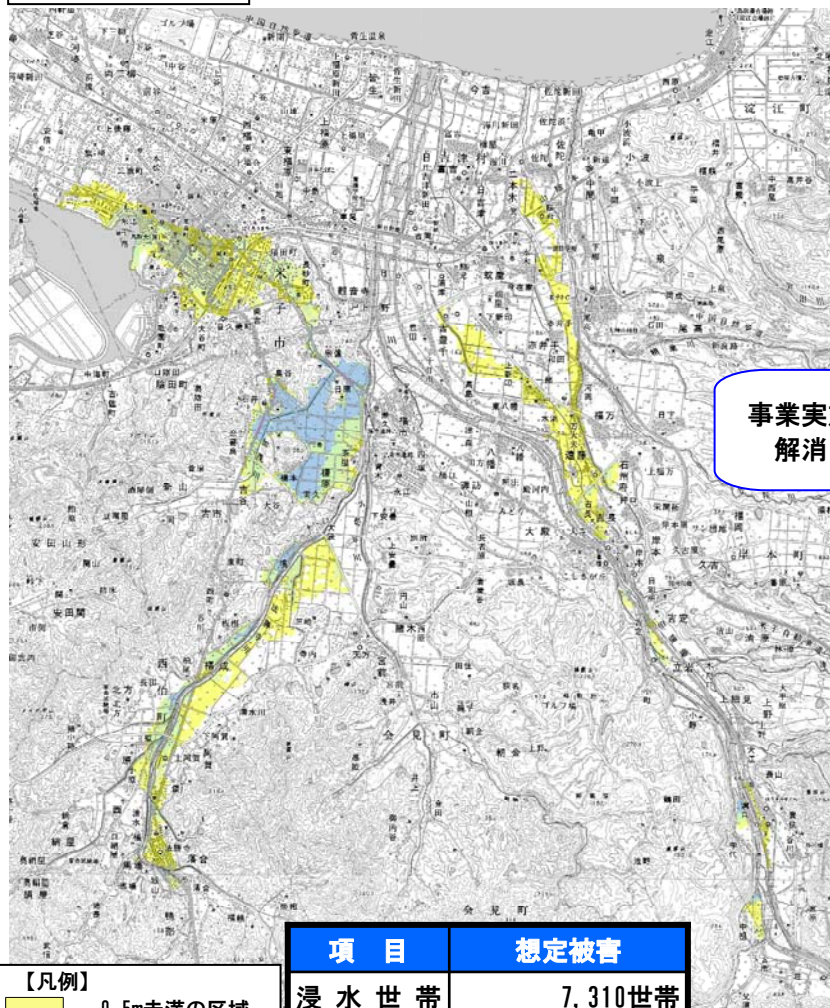
- ・今後見込まれる事業費、維持管理費については社会的割引率(4%)によって割り引いた上で集計し、現在価値化

項目	全体事業
便益(B1)	3,530.1億円
残存価値(B2)	2.0億円
総便益(B=B1+B2)	3,532.1億円
建設費(C1)	99.3億円
維持管理費(C2)	3.9億円
総費用(C=C1+C2)	103.2億円
便益比(B/C)	34.2



(例) 車尾地点で1/20確率相当の洪水が発生した場合における整備期間内の事業が完成していた場合の被害軽減状況

事業実施前



事業実施後



事業実施後に浸水が
解消される地域

【凡例】

	0.5m未満の区域
	0.5~1.0m未満
	1.0~2.0m未満
	2.0~5.0m未満

項目	想定被害
浸水世帯	7,310世帯
浸水面積	1,487ha
被害額	1,361億円

項目	想定被害
浸水世帯	361世帯
浸水面積	137ha
被害額	51億円

当面6年間の実施内容(案)の費用対効果分析

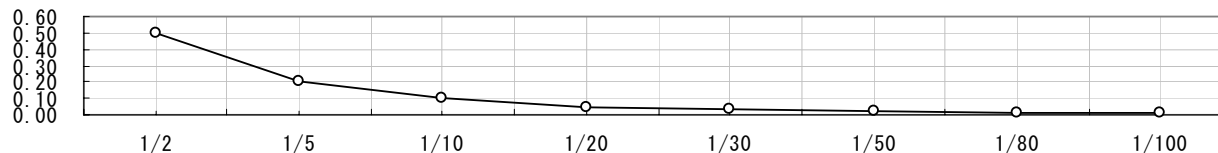
① 便益の算出方法

- 計画規模1/100年確率を最大として8ケースを検討
(無害流量、1/5年、1/10年、1/20年、1/30年、1/50年、1/80年、1/100年)
- 年平均被害軽減期待額は約156億円

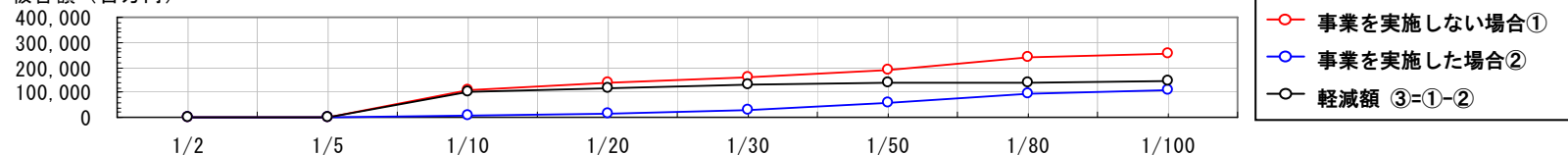
年平均被害
軽減期待額

流量規模	年平均超過確率	被害額 (百万円)			区間平均被害額 ④	区間確率 ⑤	年平均被害額 ④×⑤	年平均被害額の累計 =年平均被害軽減期待額 (百万円)
		事業を実施しない場合 ①	事業を実施した場合 ②	被害軽減額 ③ = ① - ②				
1/2 (無害流量)	0.500	0	0	0				
					126	0.300	38	38
1/5	0.200	3,037	2,786	251	49,226	0.100	4,923	4,960
1/10	0.100	106,050	7,849	98,201	108,705	0.050	5,435	10,395
1/20	0.050	136,101	16,893	119,208	123,895	0.017	2,065	12,460
1/30	0.033	160,654	32,073	128,581	131,676	0.013	1,756	14,216
1/50	0.020	191,659	56,888	134,771	137,976	0.008	1,035	15,251
1/80	0.013	237,245	96,065	141,180	144,416	0.003	361	15,612
1/100	0.010	256,993	109,342	147,651				

年平均超過確率



被害額 (百万円)



当面6年間の実施内容(案)の費用対効果分析

②費用便益比 (B/C) の算出

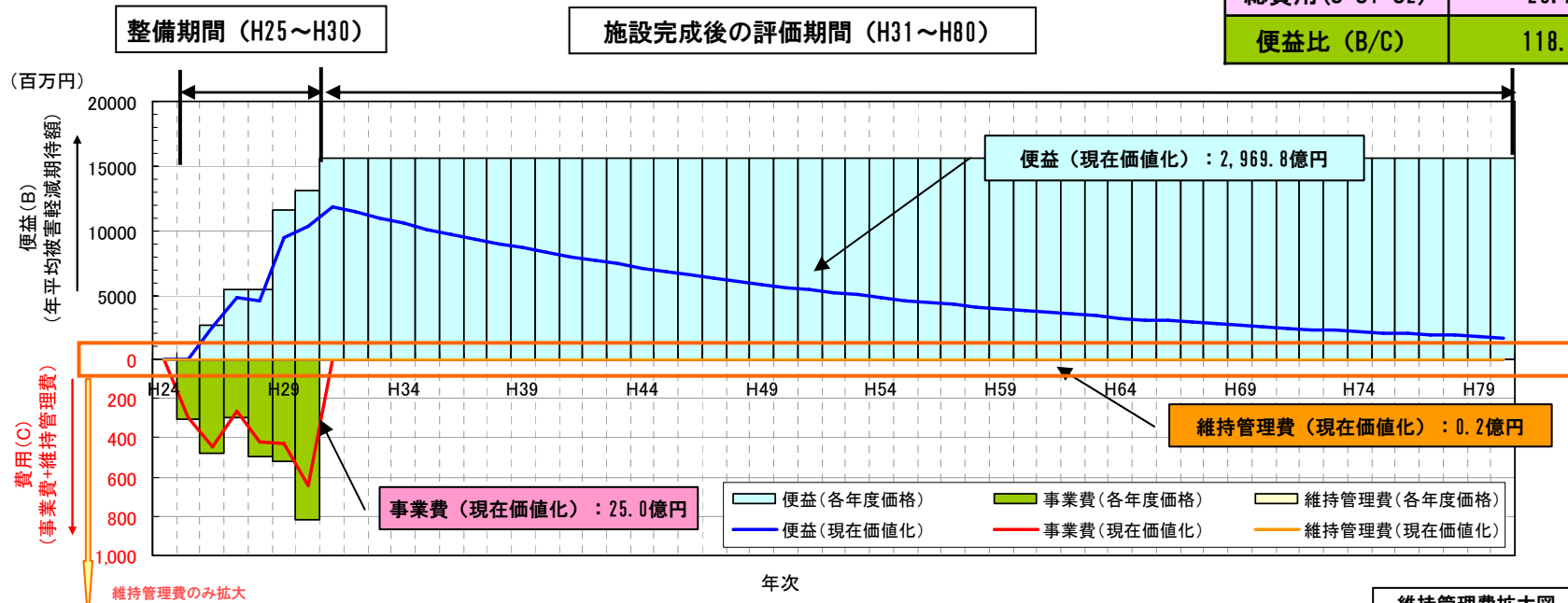
■便益の整理

- ・ ①で算出した評価期間中に発現する便益を、社会的割引率(4%)で割り引いた上で集計
- ・ 施設完成後の評価期間後に生じる残存価値を算定

■費用の整理

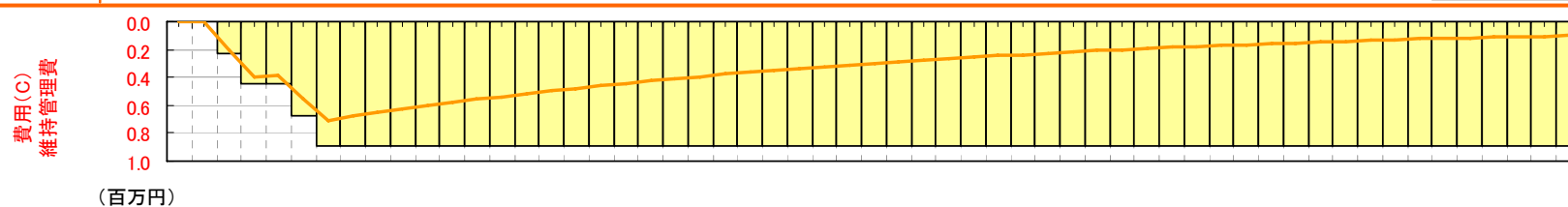
- ・ 今後見込まれる事業費、維持管理費については社会的割引率(4%)によって割り引いた上で集計し、現在価値化

項目	当面事業
便益 (B1)	2,968.6 億円
残存価値 (B2)	1.2 億円
総便益 (B=B1+B2)	2,969.8 億円
建設費 (C1)	25.0 億円
維持管理費 (C2)	0.2 億円
総費用 (C=C1+C2)	25.2 億円
便益比 (B/C)	118.1



維持管理費のみ拡大

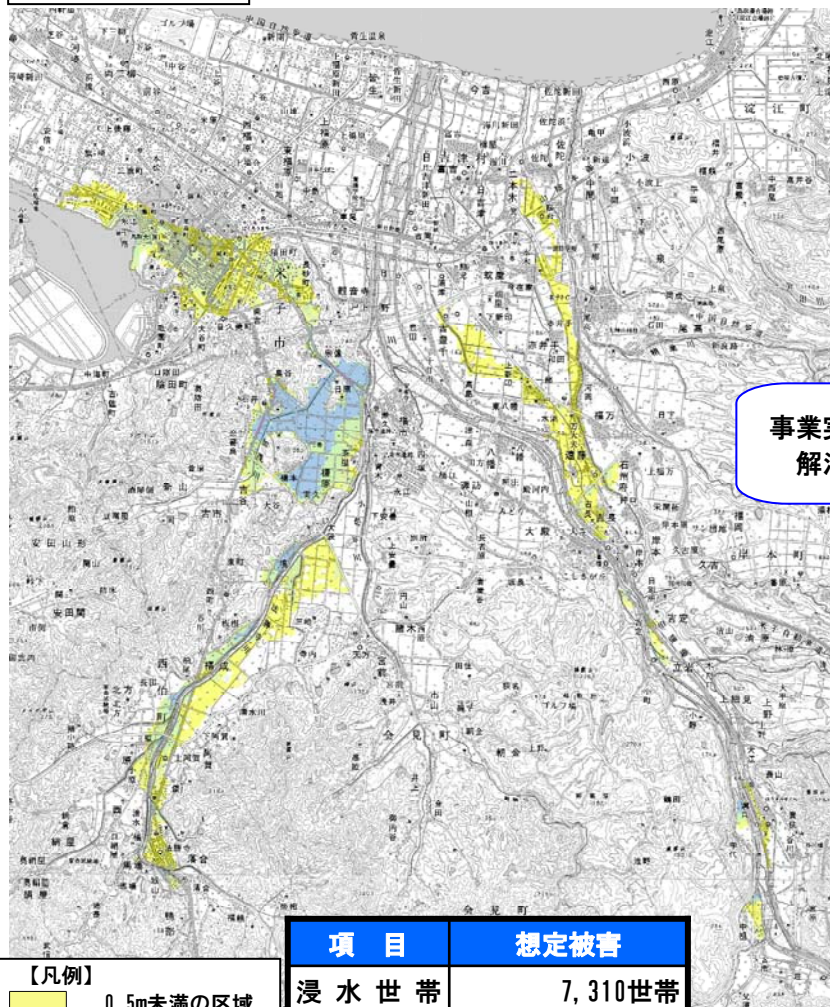
維持管理費拡大図



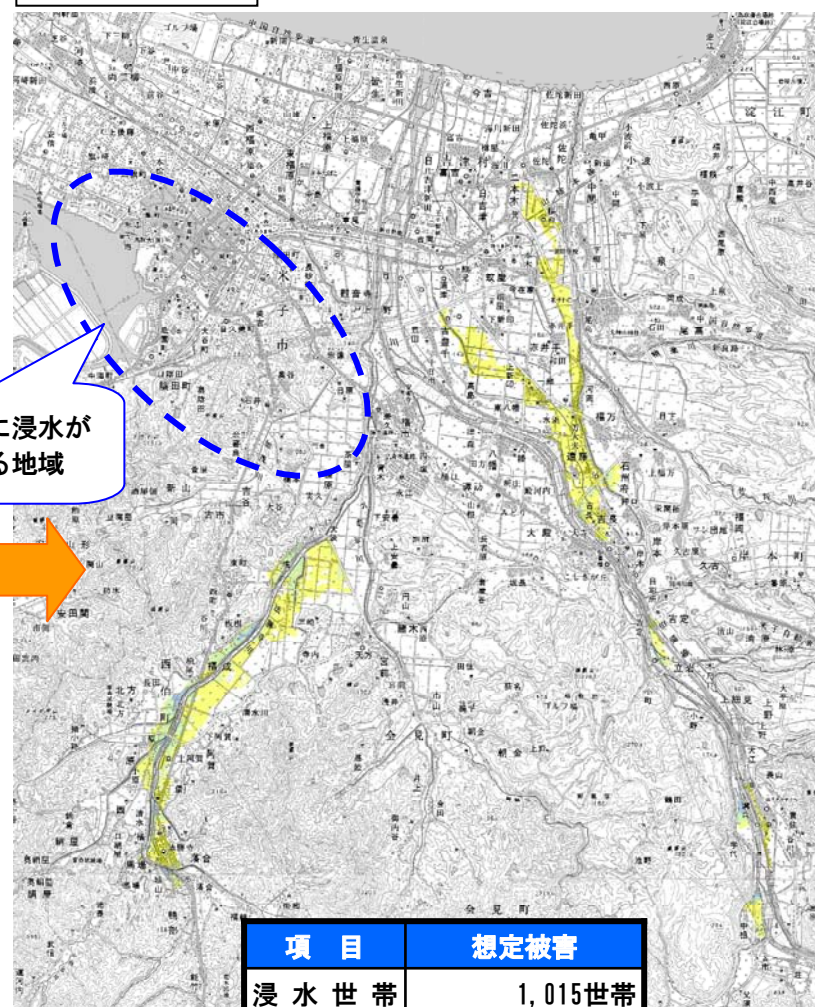
当面6年間の実施内容(案)の費用対効果分析

(例) 車尾地点で1/20確率相当の洪水が発生した場合における当面6年間の事業が完成していた場合の被害軽減状況

事業実施前







事業実施後



事業実施後に浸水が
解消される地域

【凡例】

	0.5m未満の区域
	0.5~1.0m未満
	1.0~2.0m未満
	2.0~5.0m未満

項目	想定被害
浸水世帯	7,310世帯
浸水面積	1,487ha
被害額	1,361億円

項目	想定被害
浸水世帯	1,015世帯
浸水面積	775ha
被害額	169億円

コスト縮減や代替案立案等の可能性

- 河道掘削等により発生する残土を、築堤材料等に利用することにより、コスト縮減に努める
- 河道内においては、河床掘削（攪乱）の工夫、固定堰の改築等により、滞筋の固定化による樹林化や土砂堆積等の発生しにくい河道を整備することで維持管理コストの縮減を図るとともに、他機関を含め砂防事業・海岸事業との連携を図り、日野川流砂系の健全な土砂動態を確保し、皆生海岸の侵食の抑制につなげる等、流砂系全体として維持管理コストの縮減に努める

土砂動態の現状と課題

- ・砂防域，ダム域，河道域，海岸域では、それぞれ課題があり、流砂系全体として健全な土砂動態の確保が重要
- ・「日野川流砂系総合土砂管理計画」を策定し、関係機関と連携しながら必要な対策を推進



河道内の樹林化・土砂堆積抑制の取り組み

- ・河床掘削（攪乱）の工夫、固定堰の改築等により、滞筋の固定化による樹林化や土砂堆積等の発生しにくい河道を整備



総合土砂管理の推進と皆生海岸の保全

- ・日野川流砂系の健全な土砂動態を確保し、日野川からの土砂供給の増加に努めることで海岸線の維持を他機関を含め砂防事業・海岸事業との連携により実施



今後の対応方針(原案)

1. 再評価の視点

① 事業の必要性等の視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

○米子市等の人口は近年横ばい傾向。世帯数は増加傾向

2) 事業の投資効果

○当面6年間で実施を予定している事業の費用対効果(B/C) = 118.1

○日野川直轄河川改修事業(30年間)の費用対効果(B/C) = 34.2

3) 事業の進捗状況

○支川法勝寺川の青木箇所においては、事業着手しており順調に進捗している。

② 事業の進捗の見込み

○これまでのところ事業は順調に進捗。地域住民からは引き続いての河川改修事業を切望されており、関係機関並びに地域との協力体制も構築されていることから、今後も円滑な事業進捗が見込まれる。

③ コスト縮減や代替案立案等の可能性

○掘削残土は、盛り土材料として関係機関を含めた工事に流用するなど、残土処分費用のコスト縮減に努める

○また、流域全体としての総合的な土砂管理の観点から、河道においては河道掘削や堰改築、上流域では透過型砂防堰堤の整備、海岸域では人工リーフの整備やサンドリサイクルの推進など、流砂系として健全な土砂動態の確保に努める

○現在、河川整備計画の策定作業中であり、有識者及び地域住民からの意見を踏まえつつ、関係機関と協議・調整を図りながら、コスト縮減や事業の効果・効率性等を考慮して、整備内容等を定める

2. 県への意見照会結果

○対応方針(原案)については異存ありません

【今後の対応方針(原案)】

上記より、日野川の治水安全度向上のため**事業継続が妥当**

○治水安全度向上の必要性、費用対効果、地元の協力体制等を鑑み、継続が妥当である。

○早期の治水安全度向上に向け、引き続き事業の推進を図り、早期に完成させることが必要。

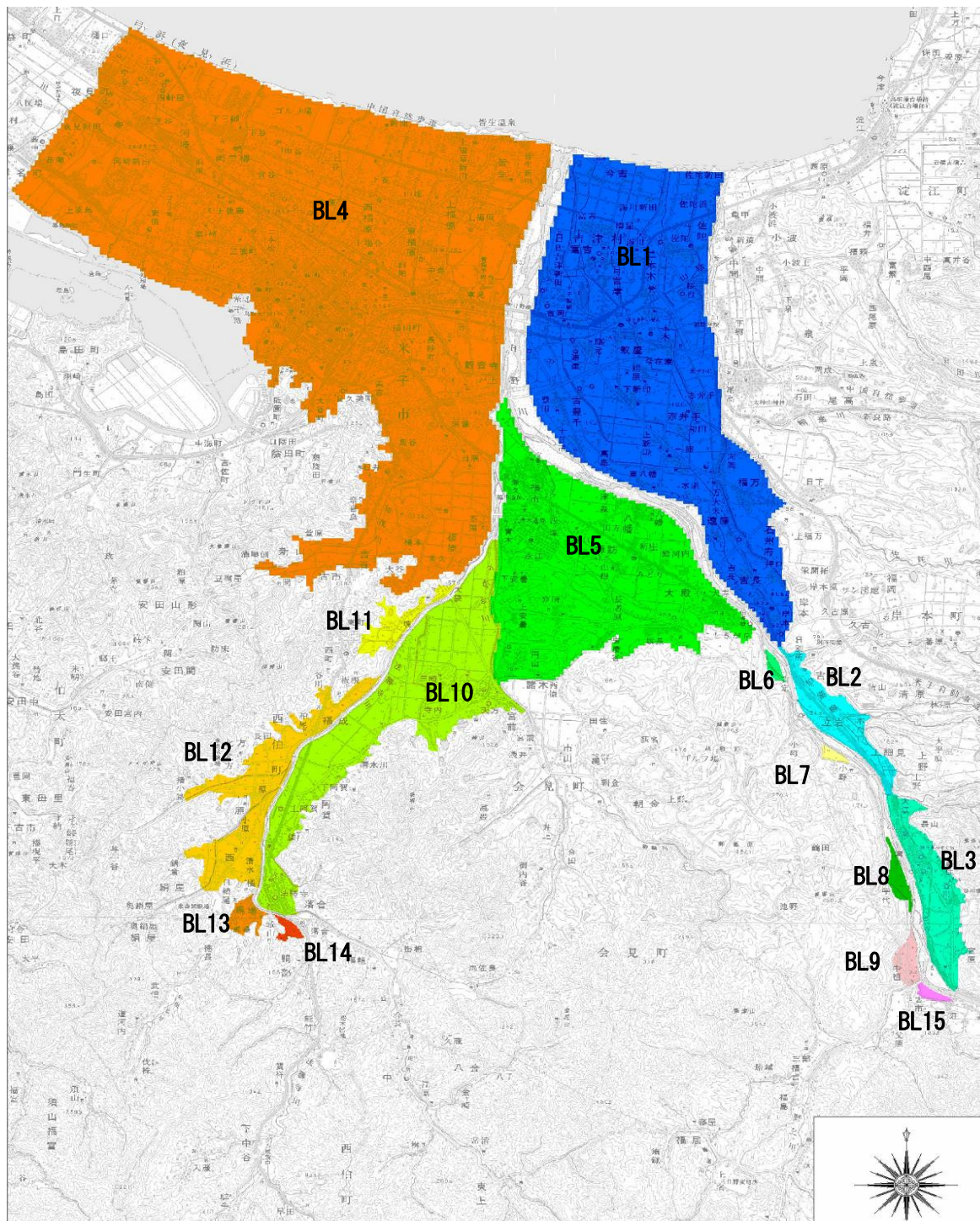
○今後の詳細な設計段階において更なるコスト縮減を図るとともに、環境にも配慮して事業を進め、より一層の事業効果の発現に努める。

◆残事業、残工期、資産を個別に±10%変動させて、費用対便益比（B/C）を算定し、感度分析を行った。

	日野川直轄河川当面改修事業の費用対便益比（B／C）						
	基本	残事業費		残工期		資産	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
全体事業	34.2	31.2	37.8	36.0	32.3	37.8	31.3
当面6年間	118.1	107.3	131.0	118.7	117.2	130.7	108.3

日野川直轄河川改修事業
〔費用便益比（B／C）算定等資料〕

様式-1 氾濫ブロック分割図



ブロック名	ブロック面積 (km ²)	一般資産等基礎数量							一般資産額						農作物資産			一般資産額等合計 (百万円)	備考	
		人口 (人)	一般世帯数 (世帯)	事業所従業員 (人)	農漁家 (世帯)	延床面積 (m ²)	水田面積 (km ²)	畑面積 (km ²)	家屋 (百万円)	家庭用品 (百万円)	事業所資産		農漁家資産		小計 (百万円)	水稲 (百万円)	畑作物 (百万円)			小計 (百万円)
											償却 (百万円)	在庫 (百万円)	償却 (百万円)	在庫 (百万円)						
ブロック1	17.257	14,378	4,412	8,293	467	1249195	8.84584	1.13969	188,081	64,662	31,474	16,635	841	219	301,913	973	490	1,463	303,377	
ブロック2	1.284	572	156	142	33	49537	0.76791	0.06278	7,458	2,289	447	331	60	16	10,601	84	27	111	10,712	
ブロック3	1.796	1,507	468	853	40	192402	0.95429	0.04694	28,962	6,865	2,467	1,558	73	19	39,944	105	20	125	40,069	
ブロック4	37.551	96,698	38,265	52,837	753	7397504	6.45152	3.02314	1,113,676	560,745	196,933	77,503	1,359	350	1,950,566	710	1,300	2,010	1,952,577	
ブロック5	9.843	10,907	3,471	1,328	299	800132	5.17194	0.66894	120,456	50,864	5,652	2,416	540	140	180,068	569	287	856	180,925	
ブロック6	0.121	0	0	0	0	0	0.06723	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	7	
ブロック7	0.100	0	0	0	0	0	0.08214	0.00222	0	0	0	0	0	0	0	9	1	10	10	
ブロック8	0.273	202	66	211	5	11120	0.12474	0	1,674	971	671	558	9	2	3,886	14	0	14	3,900	
ブロック9	0.310	48	11	43	6	6404	0.21222	0.01048	964	161	179	194	11	3	1,513	23	5	28	1,540	
ブロック10	6.350	3,931	1,145	1,519	131	266390	4.22672	0.22386	40,118	16,778	4,497	2,442	237	62	64,134	465	96	561	64,695	
ブロック11	0.646	530	167	44	21	35255	0.29822	0	5,309	2,444	106	53	38	10	7,960	33	0	33	7,992	
ブロック12	2.843	1,601	442	603	111	118663	1.78798	0.17234	17,870	6,471	2,303	2,009	201	52	28,906	197	74	271	29,177	
ブロック13	0.310	116	38	25	4	17,152	0.1715	0.0000	2,583	563	46	19	6	2	3,219	19	0	19	3,238	
ブロック14	0.134	50	16	19	1	6,148	0.0917	0.0000	925	230	93	23	2	1	1,274	10	0	10	1,284	
ブロック15	0.118	34	10	0	2	8,088	0.0222	0.0000	1,217	147	2	0	4	1	1,371	2	0	2	1,373	
合計	78.934	130,574	48,667	65,917	1,873	10,157,990	29.2762	5.3504	1,529,293	713,190	244,870	103,741	3,381	877	2,595,355	3,220	2,300	5,520	2,600,876	

①全体事業 (H25～H54)

様式-4 年平均被害軽減期待額

水系名：日野川水系 河川名：日野川、法勝寺川

対象河道：H23河道→整備計画河道

(単位：百万円)

確率規模	超過確率	被害額			区間平均被害額 ④	区間確率 ⑤	年平均被害額 ④×⑤	年平均被害額の累計 =年平均被害軽減期待額	備考
		事業を実施しない場合 ①	事業を実施した場合 ②	軽減額 ③=①-②					
1/2	0.500	0	0	0	—	—	—	0	
1/5	0.200	3,037	0	3,037	1,519	0.300	456	456	
1/10	0.100	106,050	0	106,050	54,544	0.100	5,454	5,910	
1/20	0.050	136,101	5,056	131,045	118,548	0.050	5,927	11,837	
1/30	0.033	160,654	7,314	153,340	142,193	0.017	2,370	14,207	
1/50	0.020	191,659	25,279	166,380	159,860	0.013	2,131	16,339	
1/80	0.013	237,245	41,245	196,000	181,190	0.008	1,359	17,698	
1/100	0.010	256,993	49,269	207,724	201,862	0.003	505	18,202	

②当面事業 (H25～H30)

様式-4 年平均被害軽減期待額

水系名：日野川水系 河川名：日野川、法勝寺川

対象河道：H23河道→当面整備後河道

(単位：百万円)

確率規模	超過確率	被害額			区間平均被害額 ④	区間確率 ⑤	年平均被害額 ④×⑤	年平均被害額の累計 =年平均被害軽減期待額	備考
		事業を実施しない場合 ①	事業を実施した場合 ②	軽減額 ③=①-②					
1/2	0.500	0	0	0	—	—	—	0	
1/5	0.200	3,037	2,786	251	126	0.300	38	38	
1/10	0.100	106,050	7,849	98,201	49,226	0.100	4,923	4,960	
1/20	0.050	136,101	16,893	119,208	108,705	0.050	5,435	10,395	
1/30	0.033	160,654	32,073	128,581	123,895	0.017	2,065	12,460	
1/50	0.020	191,659	56,888	134,771	131,676	0.013	1,756	14,216	
1/80	0.013	237,245	96,065	141,180	137,976	0.008	1,035	15,251	
1/100	0.010	256,993	109,342	147,651	144,416	0.003	361	15,612	

年次	年度	t	便 益 【単位：百万円】				費 用 【単位：百万円】						費用便益 比 B/C	純現在価 値 B-C
			便益①		残存価値 ②	計 ①+②	建設費③		維持管理費④		計③+④			
			便益	現在価値			費用	現在価値	費用	現在価値	費用	現在価値		
整備期間 30年	H24	0	0	0			0	0	0	0	0	0		
	H25	1	0	0			306	294	0	0	306	294		
	H26	2	2,744	2,538			479	443	0	0	479	443		
	H27	3	5,398	4,799			299	266	0	0	300	266		
	H28	4	5,398	4,615			493	421	0	0	493	421		
	H29	5	11,545	9,490			523	430	1	1	524	431		
	H30	6	13,109	10,356			814	643	1	1	815	644		
	H31	7	15,612	11,865			631	480	2	2	634	482		
	H32	8	15,720	11,491			631	462	3	3	635	465		
	H33	9	15,828	11,127			631	444	5	3	636	447		
	H34	10	15,936	10,773			631	427	6	4	637	431		
	H35	11	16,044	10,429			631	410	7	5	639	415		
	H36	12	16,152	10,095			631	395	8	5	640	400		
	H37	13	16,260	9,772			631	379	10	6	641	385		
	H38	14	16,367	9,444			631	364	11	6	642	370		
	H39	15	16,475	9,144			631	350	12	7	644	357		
	H40	16	16,583	8,855			631	337	14	7	645	344		
	H41	17	16,691	8,562			635	326	15	8	650	334		
	H42	18	16,799	8,299			635	314	16	8	651	322		
	H43	19	16,907	8,031			635	302	17	8	653	310		
	H44	20	17,015	7,759			635	290	19	8	654	298		
	H45	21	17,123	7,517			635	279	20	9	655	288		
	H46	22	17,231	7,271			635	268	21	9	656	277		
	H47	23	17,339	7,040			635	258	22	9	658	267		
	H48	24	17,447	6,804			635	248	24	9	659	257		
	H49	25	17,555	6,583			635	238	25	9	660	247		
	H50	26	17,662	6,376			635	229	26	9	661	238		
	H51	27	17,770	6,166			486	169	28	10	513	179		
	H52	28	17,878	5,953			486	162	29	10	514	172		
	H53	29	17,986	5,774			486	156	30	10	516	166		
H54	30	18,094	5,573			486	150	31	10	517	160			
施設完成後の 評価期間 50年	H55	31	18,202	5,388					33	10	33	10		
	H56	32	18,202	5,188					33	9	33	9		
	H57	33	18,202	4,987					33	9	33	9		
	H58	34	18,202	4,805					33	9	33	9		
	H59	35	18,202	4,605					33	8	33	8		
	H60	36	18,202	4,441					33	8	33	8		
	H61	37	18,202	4,259					33	8	33	8		
	H62	38	18,202	4,095					33	7	33	7		
	H63	39	18,202	3,950					33	7	33	7		
	H64	40	18,202	3,786					33	7	33	7		
	H65	41	18,202	3,640					33	7	33	7		
	H66	42	18,202	3,513					33	6	33	6		
	H67	43	18,202	3,367					33	6	33	6		
	H68	44	18,202	3,240					33	6	33	6		
	H69	45	18,202	3,113					33	6	33	6		
	H70	46	18,202	3,003					33	5	33	5		
	H71	47	18,202	2,876					33	5	33	5		
	H72	48	18,202	2,767					33	5	33	5		
	H73	49	18,202	2,657					33	5	33	5		
	H74	50	18,202	2,566					33	5	33	5		
	H75	51	18,202	2,457					33	4	33	4		
	H76	52	18,202	2,366					33	4	33	4		
	H77	53	18,202	2,275					33	4	33	4		
	H78	54	18,202	2,184					33	4	33	4		
	H79	55	18,202	2,111					33	4	33	4		
	H80	56	18,202	2,020					33	4	33	4		
	H81	57	18,202	1,948					33	3	33	3		
	H82	58	18,202	1,875					33	3	33	3		
	H83	59	18,202	1,802					33	3	33	3		
	H84	60	18,202	1,729					33	3	33	3		
	H85	61	18,202	1,656					33	3	33	3		
H86	62	18,202	1,602					33	3	33	3			
H87	63	18,202	1,547					33	3	33	3			
H88	64	18,202	1,474					33	3	33	3			
H89	65	18,202	1,420					33	3	33	3			
H90	66	18,202	1,365					33	2	33	2			
H91	67	18,202	1,311					33	2	33	2			
H92	68	18,202	1,256					33	2	33	2			
H93	69	18,202	1,220					33	2	33	2			
H94	70	18,202	1,165					33	2	33	2			
H95	71	18,202	1,129					33	2	33	2			
H96	72	18,202	1,074					33	2	33	2			
H97	73	18,202	1,038					33	2	33	2			
H98	74	18,202	1,001					33	2	33	2			
H99	75	18,202	965					33	2	33	2			
H100	76	18,202	928					33	2	33	2			
H101	77	18,202	892					33	2	33	2			
H102	78	18,202	855					33	2	33	2			
H103	79	18,202	819					33	1	33	1			
H104	80	18,202	783					33	1	33	1			
合計			1,352,768	353,014	198	353,212 =B	17,523	9,934	2,033	391	19,556	10,325 =C	34.21 =B/C	342,887

年次	年度	t	便 益 【単位：百万円】			費 用 【単位：百万円】						費用便益 比 B/C	純現在価 値 B-C	
			便益①		残存価値 ②	計 ①+②	建設費③		維持管理費④		計③+④			
			便益	現在価値			費用	現在価値	費用	現在価値	費用			現在価値
整備期間 6年	H24	0	0	0			0	0	0	0	0	0		
	H25	1	0	0			306	294	0	0	306	294		
	H26	2	2,744	2,538			479	443	0	0	479	443		
	H27	3	5,398	4,799			299	266	0	0	300	266		
	H28	4	5,398	4,615			493	421	0	0	493	421		
	H29	5	11,545	9,490			523	430	1	1	524	431		
H30	6	13,109	10,356			814	643	1	1	815	644			
施設完成後の 評価期間 50年	H31	7	15,612	11,865					1	1	1	1		
	H32	8	15,612	11,412					1	1	1	1		
	H33	9	15,612	10,975					1	1	1	1		
	H34	10	15,612	10,554					1	1	1	1		
	H35	11	15,612	10,148					1	1	1	1		
	H36	12	15,612	9,758					1	1	1	1		
	H37	13	15,612	9,383					1	1	1	1		
	H38	14	15,612	9,008					1	1	1	1		
	H39	15	15,612	8,665					1	0	1	0		
	H40	16	15,612	8,337					1	0	1	0		
	H41	17	15,612	8,009					1	0	1	0		
	H42	18	15,612	7,712					1	0	1	0		
	H43	19	15,612	7,416					1	0	1	0		
	H44	20	15,612	7,119					1	0	1	0		
	H45	21	15,612	6,854					1	0	1	0		
	H46	22	15,612	6,588					1	0	1	0		
	H47	23	15,612	6,338					1	0	1	0		
	H48	24	15,612	6,089					1	0	1	0		
	H49	25	15,612	5,855					1	0	1	0		
	H50	26	15,612	5,636					1	0	1	0		
	H51	27	15,612	5,417					1	0	1	0		
	H52	28	15,612	5,199					1	0	1	0		
	H53	29	15,612	5,011					1	0	1	0		
	H54	30	15,612	4,808					1	0	1	0		
	H55	31	15,612	4,621					1	0	1	0		
	H56	32	15,612	4,449					1	0	1	0		
	H57	33	15,612	4,278					1	0	1	0		
	H58	34	15,612	4,122					1	0	1	0		
	H59	35	15,612	3,950					1	0	1	0		
	H60	36	15,612	3,809					1	0	1	0		
	H61	37	15,612	3,653					1	0	1	0		
	H62	38	15,612	3,513					1	0	1	0		
	H63	39	15,612	3,388					1	0	1	0		
	H64	40	15,612	3,247					1	0	1	0		
H65	41	15,612	3,122					1	0	1	0			
H66	42	15,612	3,013					1	0	1	0			
H67	43	15,612	2,888					1	0	1	0			
H68	44	15,612	2,779					1	0	1	0			
H69	45	15,612	2,670					1	0	1	0			
H70	46	15,612	2,576					1	0	1	0			
H71	47	15,612	2,467					1	0	1	0			
H72	48	15,612	2,373					1	0	1	0			
H73	49	15,612	2,279					1	0	1	0			
H74	50	15,612	2,201					1	0	1	0			
H75	51	15,612	2,108					1	0	1	0			
H76	52	15,612	2,030					1	0	1	0			
H77	53	15,612	1,952					1	0	1	0			
H78	54	15,612	1,873					1	0	1	0			
H79	55	15,612	1,811					1	0	1	0			
H80	56	15,612	1,733					1	0	1	0			
合計			818,794	296,859	124	296,983 =B	2,915	2,497	47	17	2,962	2,514 =C	118.11 =B/C	294,469

事業費の内訳書

河川事業

事業名	日野川水系直轄河川改修事業(全体事業費)
-----	----------------------

評価年度	H24	再評価
------	-----	-----

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事業	本工事業費		式	1	9,524	
		河道掘削	千m ³	730	1,196	
		築堤	〃	156	174	
		護岸	千m ²	87	1,761	
		その他	箇所	-	-	
		付帯工事業費	式	1	6,393	
		堰等	箇所	6	6,393	
	橋梁	箇所	-	-		
用地費及び	補償費		式	1	2,224	
	用地費		式	1	2,201	
	補償費		式	1	23	
間接経費等					5,776	
事業費計					17,523	
維持管理費			式		2,033	

事業費の内訳書

河川事業

事業名	日野川水系直轄河川改修事業(当面事業費)
-----	----------------------

評価年度	H24	再評価
------	-----	-----

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事費	本工事費		式	1	1,294	
		河道掘削	千m ³	126	210	
		築堤	〃	15	14	
		護岸	千m ²	26	508	
		その他	箇所	-	-	
		付帯工事費		式	1	562
	堰等	箇所	1	562		
	橋梁	箇所	-	-		
用地費及び補償費	補償費		式	1	748	
	用地費		式	1	744	
	補償費		式	1	4	
間接経費等					873	
事業費計					2,915	
維持管理費			式		47	

日野川直轄河川改修事業
〔鳥取県への意見照会と回答〕

国中整企画第40号
国中整港計第7号
平成24年8月31日

鳥取県知事 殿

中国地方整備局長



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る
対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(ご依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、中国地方整備局事業監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成24年9月26日(水)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

(別紙)

【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
日野川直轄河川改修事業	継続	

※貴県の意見を踏まえ、「中国地方整備局事業監視委員会」へ諮る
対応方針(原案)を作成するためのものです。

■ご意見の送付期限 : 平成24年9月14日(金)までをお願いします。

※様式自由

■送付先

〒730-8530

広島市中区上八丁堀6-30

中国地方整備局 企画部 企画課長 宛

■お問い合わせ先

中国地方整備局 企画部企画課

課長補佐 藤原

教習係長 松田

TEL:082-221-9231(代表)

FAX:082-227-2651

第 201200093000 号

平成 24 年 9 月 12 日

国土交通省中国地方整備局長 様

鳥 取 県 知 事



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

平成 24 年 8 月 31 日付国中整企画第 40 号及び国中整港計第 7 号で照会のあった日野川直轄河川改修事業の事業再評価に係る対応方針（原案）については異存ありません。

日野川の中下流部は人口と資産が集中し、氾濫被害が生じやすく、過去に幾多の甚大な被害が発生しています。

このような中、現在まで取り組んでいただいた河川改修事業により一定の治水安全度が確保されてきているところです。

しかしながら、最近各地で豪雨が頻発しており、目標としている治水安全度の早期確保が必要であるため、引き続き完成に向け御尽力いただくとともに、河川整備計画の早期策定・公表をお願いします。また、事業の執行に際しては、できる限り経費の縮減を図られるようお願いいたします。

（担当 技術企画課 企画・技術調査担当 山本、電話 0857-26-7499、ファクシミリ 0857-26-8189）

